

# ひとと自然と建築が融合した資産としての風景

## 立正大学熊谷キャンパス再整備



キャンパスフォレスト内歩道より水路（今回整備）越しに新校舎をのぞむ  
 豊かな自然系を育むキャンパスフォレストの保全とランドスケープ整備が評価され、  
 大学として初のSEGES(社会・環境貢献度評価システム)の認定サイトとなっている。



### 資産としての風景

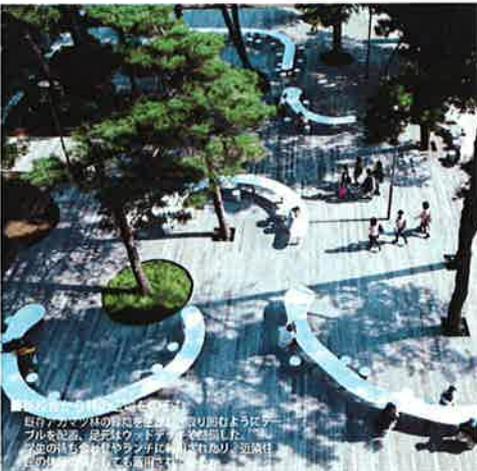
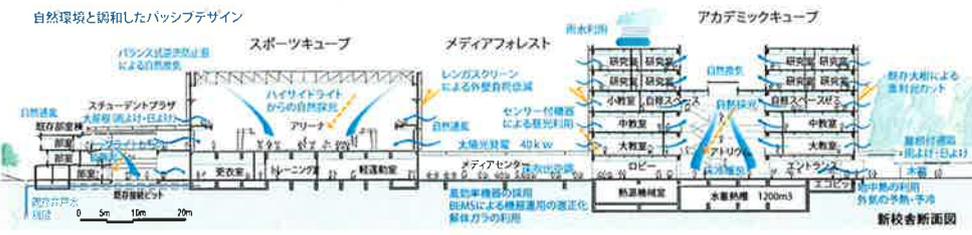
開設後40年を経た、広大な敷地をもつ郊外型のキャンパス・リノベーションである。熊谷市郊外のこの地域には森が広がり、畑・集落などの生活の場はその森に穿たれた孔のようなパターンを成して、風景をかたち作ってきた。既存キャンパスもこのパターンに倣い、水路を挟んで北側に校舎やグラウンドが、南側に森が存在した。これを再定義し、広場などランドスケープ整備やキャンパスの緑：新校舎建設を行うアクティブゾーンと、緑を保全するキャンパスフォレストを水路を境に明確に分けた。この2つのゾーンが相互補完し、対となってキャンパスの魅力を高めることで、ひとと自然と建築が融合した資産としての風景を実現した。

### ひとの姿がみえるキャンパス

緑豊かな森や桜並木をバックに学生たちの姿が生きて映し出される豊かなキャンパスとなった。友人たちと木陰の広場で授業を終えて語らう、水路際の階段に腰掛け憩うなど、都心のキャンパスでは実現しがたい潤いと活気が享受できる。また、民家や近隣の幼稚園、小中学校、老人ホームなどから市民が自由に集える公園のような開放性を実現した。

### 42%のCO2削減効果

再整備にあたり、2300本に及ぶ既存樹の調査及び維持保全、並びに300本の新規植樹を行ない、大学として初のSEGES(社会・環境貢献度評価システム)認定サイトとなった。自然エネルギー利用の促進やBEMSによる監視・省エネチューニングにより新校舎運用開始から1年間の一次エネルギー消費量は866MJ/m<sup>2</sup>・年であり、大学の平均値\*より42%削減されている。



名称 立正大学熊谷キャンパス再整備  
 所在地 埼玉県熊谷市方町1700  
 設置される建築/空間/環境の用途  
 大学キャンパス  
 規模 敷地面積-344,548㎡  
 新築延床-28,211㎡  
 発注者 学校法人 立正大学学長  
 設計者 石本建築事務所  
 オンサイト計画設計事務所  
 施工者 大成建設株式会社

| 評価項目 | 評価内容                    | 評価結果 |
|------|-------------------------|------|
| 建築計画 | 建築計画の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築設計 | 建築設計の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築施工 | 建築施工の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築運用 | 建築運用の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築評価 | 建築評価の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築改善 | 建築改善の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築維持 | 建築維持の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築管理 | 建築管理の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築安全 | 建築安全の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築健康 | 建築健康の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築福祉 | 建築福祉の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築文化 | 建築文化の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築経済 | 建築経済の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築社会 | 建築社会の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築環境 | 建築環境の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |
| 建築未来 | 建築未来の透明性、関係者の参加、環境配慮の徹底 | ◎    |

